

平成25年度冬季休業明け集会（H26. 1. 8）

- 新しい年 平成26（2014）年を迎えた
大震災から3年が経過しようとしている
冬季五輪、サッカーワールドカップ等、大きな大会が開催される年
君たちも含めて福島の生徒達が、様々な刺激を受けながら、それぞれの目指す道に精進してくれるものと思っている。
- 3年生、
1／6・7とセンター試験トレーニングを本番と同じ時間割で実施
答案に向かっている生徒諸君の目、廊下から見たのだが、目の光に力を感じた。センター試験1／18迄、今日を入れて10日間、「10日間もある」
3年始めの1日の密度とは、比べものにならないほど濃密になっているはず
11／2 安積歴史博物館講堂で3年生と保護者の皆さんに話したが、試験直前の1時間前、いや1分前まで君たちの力は伸びる。
- 1、2年生、
何度も話しているが、目標が少しでも早く固まり、それに向かって一日でも早くスタートできれば、必ず目標に到達できる。
- 「去年今年(こぞことし)貫く棒の如きもの」 高浜虚子(1874－1959)
正岡子規に終生兄事した俳人・小説家。季題・定型の尊重と客観写生・視覚描写を主張し、昭和初期の「花鳥諷詠論」により、ホトトギス派の伝統俳句を支えた。
＜教科書に採られている主な句＞
 - 白牡丹(はくぼたん)といふといへども紅(こう)ほのか
 - 流れ行く大根の葉の早さかな ○ 遠山に日の当りたる枯野かな
 - 桐一葉日当りながら落ちにけり ○ 彼一語我一語秋深みかも

去年から今年にかけて、何か棒のようなものが一本貫いているという、実に簡潔かつ映像を喚起する力を持つ句。

元々「去年今年」は新年の季語で、新たな年を迎える句。

この「棒」は「個人の生活信条や信念」或いは「一貫性のある時の流れ」と解釈されており、「まっすぐで変わらない確固たるもの」という印象を与える言葉です。

毎年、大小様々な事件や出来事が起きても、平成23（2011）年以前であれば、この「棒の如きもの」が大きく歪んだりすることは通常無かつただろうと考えられますが、3. 11の大震災前後では、この棒の質そのものが変わってしまったとも言えるのではないのでしょうか。

安積で学ぶ君たちの「棒の如きもの」は、言うまでも無く安積の精神、

「開拓者精神、質実剛健、文武両道」130年をかけて揺るぎないものになったはず。ただ、何もせずに得られるものではなく、常に先輩達から学び取るもの。その意味で、3年生は卒業後も、1・2年生は2年或いは1年かけて、太い棒の如きものを身にまとうてください。そのためにも、12／16冬季休業前集会の話、「学ぶことを確実に身に付けるためには、紙の存在が欠かせないこと」紙との格闘で確実なものにしてほしい。